



1
ボードをテーブルへ
ボードのねじれやエッジの剥離、滑走面のコンディションを確認しバリス等でテーブルに固定する。



2
ベベリング
ファイルとエッジベベルガイドを使って、滑走面側のエッジをベベリングする。



3
ボーダーカット
サイドエッジを研磨する際、エッジを保護しているボーダーが邪魔になる場合は、サイドエッジを研磨するのに必要な分だけボーダーをカットする。



4
サイドエッジファイリング
ファイルガイドにファイルを固定し、サイドエッジを研磨する。その際、一気に削ろうとせず、軽く長いストロークで少しずつ削る。



5
バリ取り
ファイリングによりできたバリを、オイルストーンまたはガムストーンで滑走面およびサイド側のエッジをこすってバリを取る。この時、角に直接当ててしまうとエッジが丸くなってしまいますので、絶対に当てないこと。なお、直接エッジの角に当てないためには、ファイルガイドを使用して作業を行うと良い。



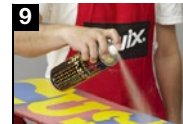
6
ノーズ・テールのエッジライティング
ノーズ・テールのエッジはキス付いたり、バリが出たりする。その場合は、ガムストーンでスムーズにする。



7
リフレッシュニング
ストラクチャー内の細かいケバを取り除くため、スチールブラシやブロンズブラシでノーズからテールに向かってブラッシングする。



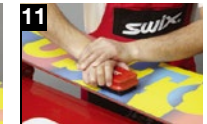
8
滑走面ケバ取り
ファイバーテックス粗目をノーズからテールに向かって一定方向にこすり、滑走面のケバを取り除く。



9
滑走面のクリーニング
ベースクリーナーでクリーニング。



10
ファイバーレーンで拭く
ファイバーレーンを使ってベースクリーナーを拭きとり、表面の細かいゴミを取り除く。



11
ブラッシング
スチールまたは、ブロンズブラシでブラッシング。ストラクチャー内に残った不純物を取り除く。



12
ファイバーテックス
ファイバーテックス細目で滑走面をスムーズにする。



13
フィニッシングパッド
微量のチリ、ブラッシング等で起きた静電気を取り除く。



14
エッジ付近のワックス
ベースバーンを防ぐため、滑走面エッジ脇1~2cmの部分に固いワックス(低温用)を塗る。(CH3Xはアイロンがけ、CH4Xは生塗り)前ページ下段参照



15
ワックスをたらす
ワックスアイロンでワックスを溶かしてワックスをたらす。



16
ワックスをのぼす
アイロンにファイバーレーン布を挟みワックスが液状になるまでのぼす。



17
サイドにたれたワックスを取る
マルチスクレーパーで、サイドにたれたワックスを乾かないうちに取り除く。



18
スクレーピングの前に
スクレーパーは角が丸まっていると効率良くスクレーピングができないので、スクレーパーシャープナーで自立してスクレーピングする。



19
スクレーピング
ボードを室温で冷やし(最低30分)、スクレーピング。



20
ブラッシング
ワックス粗削り用ブラシ、仕上げ用ブラシの順で滑走面をブラッシング。電動ドリルと組合せて使うロトブラシは、効率的なブラッシングが行える。



21
ワックスの仕上げ
ファイバーテックスポリッシュで滑走面を軽いタッチで仕上げます。



22
フィニッシングパッドで最終仕上げ
フィニッシングパッドでワックスの粉、ブラッシングで発生した静電気を取り除く。その後セラフワックスへ。

セラフのワックス方法

ドライワックス方法 (生塗り)



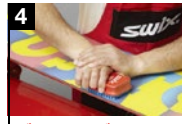
1
セラフを塗布する
パウダー、ソリッドは行程 2へ。スプレーは行程 4へ。HVCは塗ってのぼして終了。



2
コルクでのぼす
コルクの摩擦熱を利用してすり込む。



3
ポリッシャーでなじませる
セラフ専用ポリッシャーで滑走面全体になじませる。



4
ブラッシング
ナイロン、馬毛またはナイロンポリッシュの順でブラッシングする。



5
フィニッシングパッドで仕上げ
フィニッシングパッドで余分なセラフと静電気を取り除く。

セラフ パウダーのホットワックス方法 (焼付)

パウダーを振り掛けた後、アイロンをノーズからテールに向かって一定方向に軽く押し当て、パウダーを定着させる。その後ドライワックスの 4、5 の行程で仕上げる。

ワックス方法や注意事項はスキーと路向様です。左のページをご覧ください。また、行程 4 のエッジ付近のワックスも、スキーのベースバーン対処法を参考にして下さい。

